

ご挨拶

連日の暖かな春の陽気に木の芽もいっせいに吹きだし、野山が少しずつ新緑に色づいてきました。新年度が始まり、新たな体制の基で次のステップへと進む月でもあります。久斗山地区公民館は特に変わりありませんが、気持ちをさらに引き締めて地域の素晴らしさを見直し、地域の皆さんが楽しめる事業を進めていきたいと思えます。リクエストやご意見等がありましたら、ご遠慮なく申しつけて下さい。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【田んぼが始まった！農作業始動】

久斗山において、かつて水稻耕作戸数は40戸以上ありましたが、今や十数戸になりました。耕作面積も3割以下に減少しています。トラクターなどの大型機械が入らない不便な田んぼから放棄され、さらに農家の高齢化に猪や鹿の被害が拍車をかけています。それでも芽吹き、荒鋤の季節になると田んぼの荒鋤が始まりました。来月は田植えです。今年も頑張りましょう！



山の木々が芽吹き、荒鋤が終わった田んぼ。この後、水をあてて代掻きして、代均して田植えです。

【創造の森での「春の里山生き物観察とお花見」悪天候で急遽開催中止！】

久斗川の源流、本谷の集落から1kmほど林道を行ったところに創造の森があります。地域おこしの一環として毎年6月にはここでふるさと祭りが開催され、舞台が設置され、地区の各団体がバザーの店を出し、神戸の「ブナを植える会」や議員が来賓として招かれ大人も子どもも町内外から多くの方が来場して賑わいました。2013年を最後に祭りは開かれず、最近ではほとんど人が訪れることもなくなりましたが、春になるとサクラやシャクナゲの花が咲き、ブナの新緑が美しく、とてもいい場所です。今月の公民館行事で18日(日)に



久斗川の上流、本谷の村内



冷たい雨に濡れる創造の森の石碑

本谷から創造の森まで歩き、春の里山の生き物観察を企画しました。前日の夕方は晴れ、当日の朝も青空が出ていたので実施する気満々でしたが、受付の1時間前になって雷が鳴りミソシ混じりの大雨になり急遽中止にしました。晴れた日の創造の森、これからの季節、新緑が美しく野鳥の囀りも聞かれます。どうぞ、訪れてみて下さい。



ブナの花



創造の森ふるさと祭り(2013年6月2日)

【令和3年度久斗山地区公民館活動計画】

令和3年度の久斗山地区公民館の行事（活動）を次のように計画しました。昨年度はコロナの影響で中止にした行事もありましたが、今年度は感染予防に配慮し、できるだけ開催します。

○久斗山自然教室（月に1回）

- 4月「春の里山生き物と観察とお花見（本谷、創造の森）」
- 5月「春の遠足～地域探訪～（池ヶ平、安泰寺）」
- 6月「夜のホタルとカエル観察会」（青推協連携イベント）
- 7月「夏の上山高原キャンプ」（上山高原エコミュージアム）
- 8月「川遊び&生物観察&魚とり」（青推協連携イベント）
- 9月「夜の鳴く虫観察会」
- 10月「芋ほり体験と畑の生き物観察」
- 11月「ツル籠作り」
- 12月「冬の里山生き物観察会」
- 1月「雪遊び・雪像づくり」
- 2月「野生動物の足跡さがしと雪上ハイク」
- 3月「早春の野山の生き物さがし」



☆久斗山・境地区運動会 ふれあい交流会（10月）

【いつまでもお元気で！久斗山すこやかクラブ】

新年度になり、久斗山すこやかクラブの会長も中村はるえさんから新たに岡村喜代子さんに交代しました。今年も毎週金曜の午後は百歳体操が開催されます。9日に寄せてもらった時は9名の参加があり、ビデオに合わせて1時間程度の体操をしました。次の日は朝から大杉神社の清掃作業を行ったそうで、ご苦労様でした。何かとお世話にりますが、皆さんの笑顔が地域を明るくしてくれます。いつまでもお元気で！



【夢ホール リニューアルオープン】

新温泉町文化体育館夢ホールの耐震補強・大規模改修工事が総事業費7億7千万円、2年間の工期を費やしてこのほど完成し、4月10日に記念行事が開催されました。当日は式典と平田オリザ氏の講演、劇団青年座の演劇もあり、多くの人に参加して盛況でした。



○令和3年 5月の行事

- 5日(水) 子どもの日
- 15日(土) 「扇ノ山残雪・新緑登山」（9：00～15：00 上山高原エコミュージアム）
- 16日(日) 久斗山自然教室「春の遠足～地域探訪～」（9：00～14：00久斗山公民館）
- 17日(月)～21日(金) 小学5年 新温泉町連合自然学校



山陰海岸ジオパーク

居組海岸を知り尽くす

CEO×アクティビティプロジェクト！

- とき：令和3年5月17日(月) 9：30～
- 集合：山陰海岸ジオパーク館
- ・参加費：無料(カヌーレンタル2,000円)
- ・定員：20名
- ・服装：水着、帽子、ライフジャケット
- ・内容：

- 1, 座学講座／居組海岸の地形ほか
- 2, フィールド講座／カヌーでジオ解説

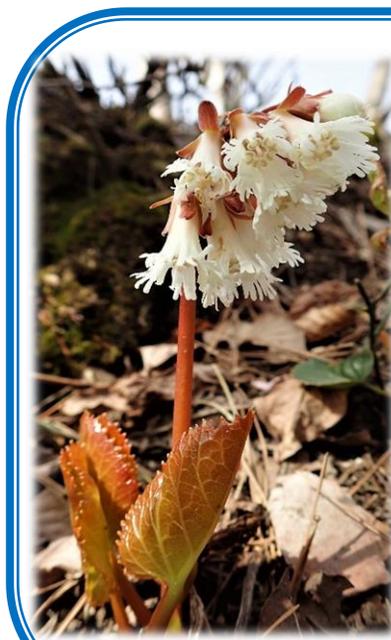
・申込締切り：5月13日(木)

【申し込み・問い合わせ先】

「山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局(担当：吉谷)」

TEL:0796-26-3781 FAX:0796-26-3785

メール Mizuki_Yoshitani@pref.hyogo.lg.jp



白い花のオオイワカガミ

岩場のような輝きがあるから。少し小ぶりのオオイワカガミは高山植物で高山の名前の由来は葉に艶があり、鏡のような輝きがあるから。少し小ぶりの岩場に自生します。

今月の野草

オオイワカガミ

木の芽が萌えだした林床に、丸いツヤツヤした葉の間から、十センチほどの茎を伸ばし、縁が細かく切れ下向きのピンクの花をいくつも房状に付けます。花によって色に濃淡があり、中には真っ白なものもあります。

かってに昔話

あかなめの滝(第一話)

作、いつこう

境の村の下、久斗川の支流の谷にある滝はあかなめの滝」と言うそうだが、あかなめってどんな字なんだろう？赤滑…水が岩を滑りおちているけど、岩が赤かったらどう？まさか、垢舐め…じゃあないだろうか？そんな妖怪が居たように思いますが、勝手にあれこれ考えていて、こんな昔話を思いつきました。

「かってに昔話」今後もご鼻唄のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

むかしむかし、山奥の民は田んぼで稲を作るってことは全然してなくて、山にすむ猪や鹿、兎、熊、山鳥などの動物を捕まえる狩人がほとんどでした。

今みたいに鉄砲なんてある時代じゃなく、木や竹で作った弓や矢、先を尖らした槍とか、蔓を輪にした罟といった、効率はあんまり良いとは言えないけど工夫した方法で狩りをしていました。みんな、動物の行動を熟知した腕の良い狩人ばかりでした。

こっちの山はオキ、この谷はクリオ、ここの尾根から先はイナ。狩人たちはそれぞれの家族で縄張りを持ち、けっして他人の縄張りで狩りをすることはありませんでした。狩りの方法や山の掟は親から子に引き継がれ、狩った獲物は肉や内臓を食べるだけでなく、毛皮や骨、角まで上手に利用して生活の道具にしていました。

必要なだけの動物を狩り、春には山菜、夏には野いちごなどの木の実は、秋はキノコなども採取しました。時には獲物が捕れず、実りが少ない年もありましたが、山からの恵みを甘受し、質素ですが心の満たされた生活をしていました。